

2023 年度 西山雄二研究室 活動報告



(都立大・西山雄二ゼミ×専修大・宮崎裕助ゼミ 合同夏合宿)

1. 学術的催事

2023 年 5 月 31 日 (水) 18.30-20.30

東京都立大学南大沢キャンパス 1 号館 110 教室

宇野邦一 (立教大学名誉教授) 「生の有機／非有機のあわい——アルトーとドゥルーズの〈思考〉から」

コメント：越智雄磨 (東京都立大学)

司会：西山雄二

主催：東京都立大学西山雄二研究室

助成：学長裁量経費「「あわい」をめぐる日本とヨーロッパの比較文化研究の双方向的展開」

協力：講談社

**生の有機／非有機のあわい
——アルトーとドゥルーズの〈思考〉から**

2023年5月31日(水) 18:30-20:30
東京都立大学 (南大沢)1号館110教室(正門へついで右手)

講師名: **宇野邦一** (立教大学名誉教授)
ディスカッション: **越智雄磨** (東京都立大学)
司会: **西山雄二** (東京都立大学)

入場無料、事前登録なし 対面のみで配信なし
主催: 東京都立大学西山雄二研究室
助成: 学長裁量経費「あわい」をめぐる日本とヨーロッパの比較文化研究の双方向的展開
協力: 講談社

非有機的生
宇野邦一
著者渾身の集大成!

2023年6月21日(水) 18:30-20:30

東京都立大学(南大沢)5号館131教室

「廃園——記憶と虚構のあわい」Ruinous Garden: Between Memory and Fabrication

講演者: デンニツァ・ガブラコヴァ

Dennitza Gabrakova (Victoria University Wellington,
New Zealand/Visiting Research Scholar, International
Research Center for Japanese Studies)

ディスカッサント: 大杉重男、
高桑枝実子(東京都立大学)

司会: 西山雄二

主催: 東京都立大学西山雄二研究室

助成: 学長裁量経費「あわい」をめぐる日本とヨーロッパの比較文化研究の双方向的展開



2023年6月28日(水) 16:30-19:00

ジャック・デリダ「限定経済から一般経済へ
——留保なきヘーゲル主義」を読む

Zoomによる配信方式

発表者: 西山雄二(東京都立大学)

コメント: ダリン・テネフ(ブルガリア・ソフ
ィア大学)、宮崎裕助(専修大学)

主催: 東京都立大学西山雄二研究室



2023年7月15日(土) 14:00-17:00

ジャック・デリダ『メモワール』を読む

東京都立大学南大沢キャンパス 1号館110教室

発表: 吉松覚、小原拓磨、高波力生哉、宮崎裕助

コメント: 土田知則 司会: 宮崎裕助

主催: 脱構築研究会

後援: 東京都立大学西山雄二研究室



2023年7月27日(木) 日帰り夏合宿 @本と珈琲 カピバラ(山梨・甲府)

「デリダ『法の力』を読む」

2023年8月12日(土) 13:00-18:00

ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』を読む

東京都立大学(南大沢)より配信

小田麟太郎「無為の共同体」「文学的共産主義」

安藤歴「途絶した神話」「〈共同での存在〉について」

楊芋蔚「有限な歴史」

発表：中田峻太郎、山本源大

コメント：柿並良佑 司会：山根佑斗

主催：脱構築研究会

後援：東京都立大学西山雄二研究室

The poster features the title 'Jean-Luc Nancy, La communauté désœuvrée' at the top. Below it, the event title 'ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』を読む' is prominently displayed. The date and time '2023年8月12日(土) 13:00-18:00' and the location '東京都立大学(南大沢)より配信' are listed. A detailed schedule follows: 13:00-14:25 for 小田麟太郎, 14:35-16:00 for 安藤歴, 16:10-16:35 for 楊芋蔚, and 16:35-18:00 for the main speakers. It also lists the host (山根佑斗) and sponsor (脱構築研究会). The poster includes two images: a painting on the left and a colorful abstract diagram on the right.

2023年8月27-28日@長野県松本市

鶴飼哲、インタビュー取材

西山雄二、宮崎裕助、中田麻里、佐藤勇輝、高波力生哉

都立大・西山雄二ゼミ×専修大・宮崎裕助ゼミ 合同夏合宿

2023年9月6-8日@山中湖

9/6

13.30-15.00 都立大卒論構想発表会

米原大起(アラン)、黒谷仁哉(シモーヌ・ヴェイユ)、井上質博(ナタリー・サロート)

15.30-17.00 セッション1 研究発表

福島実佳(フーコー)、高田芽実(ドゥルーズ)、白井鎌(デリダ)

18.00-20.00 セッション2 バタイユ『エロティシズム』を読む

竹内大祐(主催責任者)、森祐太、河野大和、王紀元

9/7

13.30-15.00 専修大卒論・修論構想発表会

山田孝之輔(フロイト)、高橋楽弥(デリダ)、鹿島泰造(ハイデガー)

15.30-17.00 セッション3 修論・卒論構想発表会

森祐太(バタイユ)、佐藤勇輝(ジュネ)、王紀元(デリダ)

17.00-19.00 バーベキュー、花火

9/8

10.30-12.00 セミナー

時田雅生(スピノザ)、菊池一輝(ラカン)

2023年10月11日(水) 18.30-20.30

破壊と再生のあわいからみる東京——源川真希『東京史 七つのテーマで巨大都市を読み解く』を読む

東京都立大学南大沢キャンパス 1号館110教室

コメント：左古輝人(社会学)、石田慎一郎(社会人類学)、
环洋一(社会福祉)、竹原幸太(教育学)、石川求(哲学)、大杉重男(日本文化論)、
原田なをみ(言語科学)、金志成(ドイツ文学)

応答：源川真希(歴史学・考古学)

司会：西山雄二(フランス文学)

主催：東京都立大学西山雄二研究室
後援：学長裁量経費「「あわい」をめぐる日本とヨーロッパの比較文化研究の双方向的展開」



2023年12月22日(金) 17.00-18.30

国際セミナー「日本とヨーロッパにおける「あわい」

東京都立大学南大沢キャンパス 5号館134教室

ダリン・テネフ「あわいとしての虚構、あるいは
盲目の予言者テイレシアスの後継者たち」

高橋博美「あわいという装置 単身世帯の増加と
多様な連携モデル」

コメント：八木悠允(東京都立大学専門研究員/
フランス、ロレーヌ大学)

司会：西山雄二

主催：東京都立大学西山雄二研究室

助成：東京都立大学・学長裁量経費「「あわい」をめぐる日本とヨーロッパの比較文化研究の双方向的展開」、人文科学研究科・学術講演会支援金



2. 演習授業

前期水曜5時限・大学院演習「主人と奴隷の弁証法とフランス思想」

「主人と奴隷の弁証法」はヘーゲルが『精神現象学』の「自己意識」の章で展開した思索である。支配者たる主人は奴隷を従属させる。主人は享受し、奴隷は労働する。互いにみずからの自立した意識を獲得するために、生死を賭けた闘いが生じる。ただ、主人は自分の存在を奴隷に依存しており、物の生産に携わる奴隷こそが自立しているとも言える。主人と奴隷の優劣は逆転しうなのだ。このくだりはマルクスを感動させ、労働者の解放という着想を与えた。また、20世紀フランス思想において、主人と奴隷の弁証法は、主体間の相互承認の場面として、さまざまな解釈を受けてきた。本講義では、主人と奴隷の弁証法の骨子を学ぶとともに、そのフランス思想への影響と今日的可能性を見定める。

演習は、①Judith Butler, Catherine Malabou, *Sois mon corps: une lecture contemporaine de la domination et de la servitude chez Hegel*, Bayard, 2010.の読解、②「主人と奴隷の弁証法」に関するコジェーヴ、バタイユ、デリダ、バトラーなどの論考の検討から構成される。

4/12 ガイダンス「20世紀フランス思想とヘーゲル受容」

4/19 「主人と奴隷の弁証法」の解説(1) Cf. Gwendoline Jarczyk, Pierre-Jean Labarrière, *Les premiers combats de la reconnaissance*, Aubier, 1987

4/26 「主人と奴隷の弁証法」の解説(2)

5/10 Butler&Malabou, *Sois mon corps* 序文

5/17 Catherine Malabou « Détache-moi » / ミシェル・フーコー『哲学の言説』、ル・モンド紙書評

5/24 Catherine Malabou « Détache-moi »

5/31 Catherine Malabou « Détache-moi »

6/7 ジョルジュ・バタイユ「ヘーゲル、死と供犠」を読む

6/14 Catherine Malabou « Détache-moi »

6/21 Catherine Malabou « Détache-moi »

6/28 ジャック・デリダ「限定経済から一般経済へ——留保なきヘーゲル主義」を読む 西山雄二、宮崎裕助、ダリン・テネフ

7/5 Judith Butler, « Le corps de Hegel est-il en forme : en quelle forme ? »

7/12 Judith Butler, « Le corps de Hegel est-il en forme : en quelle forme ? » / フランス語文法「冠詞」

7/19 Judith Butler, « Le corps de Hegel est-il en forme : en quelle forme ? »

後期水曜5時限・大学院学部演習「20世紀フランスの思想」

20世紀を通じて、フランスでは哲学や思想の知的探究が、文学や芸術、精神分析、人類学、経済学、歴史学などと交錯しながら展開された。そらの思潮は西欧中心主義的な思想への反省や対抗として現れ、主体や意識、身体、歴史、文明、政治などのさまざまなテーマを刷新した。実存主義や構造主義、ポスト構造主義などと表現されるこれらの思潮は世界的に拡散され、応用され、いまでは人文学研究の明示的ないし暗示的なスタンダードとなっている。本演習では、20世紀フランスの思想をオムニバス形式で辿ることでその思潮を概観する。

10/11 Jean-Paul Sartre, *L'Existentialisme est un humanisme*. サルトル『実存主義とは何か』

10/17 Albert Camus, *L'homme révolté*. カミュ『反抗的人間』 / 「出来事」について

10/25 「日本哲学の脱構築」ワークショップ@専修大

西田幾多郎『善の研究』第2編 発表者：宮崎裕助、亀井大輔 コメントータ：檜垣立哉

11/8 Georges Batailles, *L'expérience intérieure*. ジョルジュ・バタイユ『内的体験』

11/15 Maurice Blanchot, *L'espace littéraire*. モーリス・ブランショ『文学空間』（「本質的孤独」）

11/22 Simone Weil, *La pesanteur et la grâce*. シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』

11/29 Roland Barthes, « La mort de l'auteur » ロラン・バルト「作者の死」

12/13 Paul Ricœur, *Le mal*. ポール・リクール「悪について」

12/20 修士博士学生の論文合評会

1/10 Gaston Bachelard « Instant poétique et instant métaphysique » ガストン・バシュラール「詩的時間と

形而上学的時間」

1/17 Emmanuel Levinas, *Éthique et infini*. エマニュエル・レヴィナス『倫理と無限』（「顔」）

1/24 Jacques Lacan « D'une question préliminaire à tout traitement possible de la psychose » ジャック・ラカン「精神病に対してなしうるあらゆる治療への前提的問いについて」

1/31 Yves Michaud, Sylviane Agacinski, Jean-Luc Nancy, Carole Diamant. *Pour qui philosophent-ils ?* イヴ・ミショー、シルヴィアンヌ・アガサンスキー、ジャン＝リュック・ナンシー、キャロル・ディアモン「誰のために哲学するのか」

3. 大学院生・学部生・研究員主催の読書会（2023年1月～2024年1月）

【高波力生哉・企画運営】

・ジャック・デリダ『エクリチュールと差異（改訳版）』谷口博史訳、法政大学出版局、2022年。
2月18日、4月1日、4月15日、8月15日

【菊池一輝・企画運営】

・ラカン入門読書会

向井雅明『ラカン入門』、ちくま学芸文庫、2016年。

3月19日、4月2日、4月23日、5月28日、7月9日、8月13日、9月24日、10月22日

・フロイト読書会

フロイト『ヒステリー研究』芝伸太郎訳（『フロイト全集』第2巻所収）、岩波書店、2008年。

フロイト『快原理の彼岸』須藤訓任訳（『フロイト全集』第17巻所収）、岩波書店、2006年。

1月14日、2月4日、2月13日、2月20日、2月27日、3月13日、3月27日、4月10日、4月17日、4月24日、4月30日、5月18日、6月8日、6月17日、6月22日、6月29日、7月13日、7月28日、10月5日、10月12日

【佐藤勇輝・企画運営】

・ジャン・ジュネ『シャティエーラの四時間』鶴飼哲・梅木達郎訳、インスクリプト、2010年。

11月11日

【米原大起&菅原肇・企画運営】

・東浩紀『観光客の哲学 増補版』、ゲンロン、2023年。

11月7日、11月28日、12月12日、12月26日、1月23日

【岡本輝一&八木悠允・企画運営】

・ショーペンハウアー『充足根拠律の四方向に分岐した根について』第一版読書会

『ショーペンハウアー哲学の再構築』鎌田康男ら訳、法政大学出版局、2010年。Arthur Schopenhauer,

„Ueber die vierfache Wurzel des Satzes vom zureichenden Grunde“, In *Sämtliche Werke*, 7 Bände, Hrsg. V. Arthur Hübscher, Wiesbaden: F. A. Brockhaus, 1972.

10月5日、10月19日、10月26日、11月2日、11月9日、11月16日、12月7日

・ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』読書会

『意志と表象としての世界』西尾幹二訳、中央公論新社、2004年。『ショーペンハウアー全集』斎藤忍随ら訳、白水社、1996年。 *Le monde comme volonté et comme représentation*, traduit par Auguste Burdeau, Paris, Librairie Félix Alcan, 1912. Arthur Schopenhauer, *Die Welt als Wille und Vorstellung*, Kritische Jubiläumsausgabe der ersten Auflage von 1819 mit den Zusätzen von Arthur Schopenhauer aus seinem Handexemplar, Hrsg. V. Matthias Koßler und William Massei Junior, Felix Meiner Verlag, Hamburg, 2020.

12月14日、12月21日、1月18日

【八木悠允&西村真悟・企画運営】

ミシェル・ウエルベック研究会 (<http://houellebecqia.com>)

・『幸福の追求』（仮題）精読

- *La Poursuite du bonheur*, Paris, La Différence, 1991 ; Paris, J'ai lu, 2001.

2023年9月1日、9月8日、9月17日、9月24日、10月8日、10月15日、10月23日、11月19日、11月26日、12月5日、12月17日、12月31日、1月14日、1月21日

・研究論文会読

2023年11月5日

- Karl Agerup, « La place de William Morris dans la structure narrative de *La Carte* », in *L'Unité de l'œuvre de Michel Houellebecq*, Paris, Editions Classiques Garnier, 2014.

- Mathilde Savard-Corbeil, « La carte, le territoire et la crise de la représentation : Michel Houellebecq, l'esthétique contemporaine et le discours sur l'art », in *Roman 20-50 Revue d'étude du roman des XXe et XXIe siècles*, n° 66, Presses Universitaires du Septentrion, décembre 2018.

2023年11月12日

- Bernabé Wesley, « L'objet carte dans *La carte* et le territoire », in *Houellebecq entre poème et prose*, Montréal, Les Presses de l'Université de Montréal, 2021.